

地場産業の支援事例

福山市駅家町の繊維産業活性化

岡野 仁, 平田 勉

Case study on Support for Local Industry

Activation of the textile industry of Ekiya in Fukuyama

OKANO Hitoshi and HIRATA Tsutomu

The textile industry is groping for the way of differentiation to rise of overseas products. Under these circumstances, the commerce-and-industry meeting made the industrial activity enterprise, and we performed technical supports. In accordance with the nationwide flow towards construction of circulated-type social, 3R was chosen as the theme. As a result of carrying out both structure for a place of production cooperating with a consumer and development of the high added value goods by the original brand, the information for conversion to a created-type place of production was acquired.

繊維業界は、安価な海外製品の台頭に対して差別化の道を模索している。そうした中、商工会による産業活性への取り組みがなされ、当センターが技術支援をおこなった。全国的な循環型社会構築へ向けての流れにあわせ、3R(reuse, reform, recycle)がテーマに、消費者と連携した産地のしくみづくりと、オリジナルブランドによる高付加価値商品の開発の2面から取り組んだ結果、創造型産地の形成へ向けて成果を得る事ができた。

キーワード：地場産業、活性化、繊維、3R

1. 緒 言

広島県東部地域は、古くから特産「備後緋」を産み出すなど、縫製産業の盛んな地である。国内の高度成長に合わせて盛況の続いた繊維産業であったが、近年は海外生産、国内空洞化の影響を最も受けた業種のひとつとなり、地域産業の停滞につながっている。

このような状況のもと、広島県福山市駅家地区では、駅家町商工会が主体となって産業活性の取り組みがおこなわれた。事業は経済産業省と福山市による補助事業「地域振興活性化事業」としてすすめられ、当センターで技術支援をおこなった。

事業は、循環型社会の形成という社会動向をふまえ、3R (Reform, Reuse, Recycle)をテーマに取り組まれた。事業推進委員会内に2つの副委員会を設置し、高付加価値商品の開発による「駅家ブランド」の構築を目指すとともに、産地としてのアピールとユーザーニーズ収集をおこなう「ものづくり工房」を設置し、業界の体質を改善するしくみづくりに取り組んだ。

本事業の概要と当センターの支援内容を、以下に報告する。

2. システム開発委員会

2.1 循環型産業

昨今、繊維製品に対する消費者の好みはめまぐるしく変わり、個を際立たせるという高度な付加価値をもった商品への志向が高まっている。一方では、格安な量産製品も好調である。「よそいきと普段着」の区別があいまいになる中で、こうした両極端ともいえる製品が受け入れられる背景には、「ハレとケ」などと呼ばれる日常と非日常を、徹底的に使い分ける生活が見え隠れしている。

下着や制服といった生活密着型製品の産地として成り立ってきた当地区の繊維業界は、「ケ」の世界からの新提案として、循環型産業というテーマを選んだ。学校で用いられる制服を、バザーに出したり後輩に譲ったりというリユース活用、また、古衣装を用いた小物作りなどリフォーム活用は、昔から地域コミュニティの中でおこなわれていることである。また、「ハレ」の舞台で通用する高付加価値製品が、古布から作られる物の中に少なからず存在することに目をつけたのである。

2.2 「おしゃれエコ工房えきや」の設置

循環型産業を企業が事業として取り入れることは、その手間と需給の不確かさからリスクが大きい。そこで、地域コミュニティが繊維の3Rに求めるニーズを収集し、プロからの3R提案を周知できる場として、以下の機能を持たせた工房を、「おしゃれエコ工房えきや」と名

づけて町内に設置した。(写真1)

1. 地場産業の商品、技術紹介
高機能製品（ジーンズの多色染め、着物地活用）
古布を利用した小物商品（人形、袋物、洋装品）
2. リユース提案／3R相談コーナー
小物作り教室、出前教室（小学校）
3. アンケートの実施
工房評価、環境意識調査



写真1 おしゃれエコ工房えきや

収集した情報から得られたことは、中高年の女性からのリフォーム需要がとくに強く、家庭から供給される古衣装を復活させるしくみが期待されていることである。また、工房PRに対する反響が多かったことは特筆すべきである。一地方の一角に設置された工房に対して、県内外から問い合わせがあり、遠方から興味を持って足を運ばれる方も少なくなかった。循環型繊維産業というテーマの将来性に期待を持てる成果を得ることができた。

3. 新商品開発委員会

3.1 産地形成

超低価格だけが売りであった海外生産品が、品質向上を遂げる中、国内産地の展望としては、創造提案型への移行が必死である。ブランド力を持った産地形成のために、事業委員の浦野年彦氏の提唱によって、地域全体が次のような意識をもって取り組むことを確認した。

1. 地域全体のレベルアップ
産地の特色として素材やアイテムの偏りをなくす
2. 人材育成
高齢化への対応、営業・パタンナーなどの育成
3. システムの見直しと構築
地域内の連携を密にして作業をスムーズに
4. 情報収集
外（市場の動き）からの情報を集め、対応
5. 地域の存在を知らせる
地域が一丸となって、マスコミ・市場にアピール

3.2 オリジナルブランド「fore fore」

事業の一環として、オリジナルブランド「fore fore（ふぉあふぉあ）」(表1)を立ち上げ、展示会(大阪ギフトショー2003)に出展をおこなった。(写真2)

ブランド作成にあたっては、デザイン系学校の学生からのアイデアを活用したほか、企業から出る端材や家庭の古布からのリフォームを取り入れるなど循環型産業への試みも同時におこなわれた。

表1 オリジナルブランド「fore fore」

ブランド	fore fore (ふぉあふぉあ…柔らかな雰囲気 英語)
コンセプト	大人の感覚を持った生活者のためのワードローブ（レディース）
イメージ	シンプルでレトロっぽい感じの楽しい服
素材	デニム・紺・綿素材中心
アイテム	ジャケット・ワンピース・ブラウス・ベスト・スカート・パンツ・ストール・バッグ等総型数 60 余

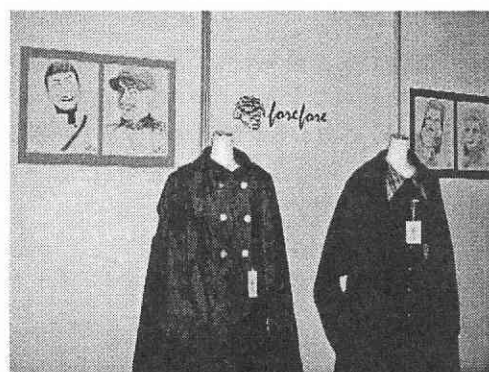


写真2 駅家ブランド「fore fore」

製作を担当した地場企業27社にとって、普段作りなれない商品群であったにもかかわらず見事に作り上げられ、展示会においても当ブランドは他ブースと遜色なく並ぶことができた。今事業のブランド提案は、産地がもつ独自技術を活かしたものづくりの成果として、各社の創造企業への脱皮の大きな足がかりになった。

4. 結 言

循環型産業をテーマにした地域振興活性化事業として、工房設置による情報収集と、創造型商品開発としてのブランド提案の2面から、地場繊維産業の活性化を支援し、以下の結果が得られた。

- 1) 繊維分野においても循環型産業形成への期待が高まっており、リフォーム衣料への需要も多い。産業としてのしくみ作りなど課題は多いが、活用法を模索して産地の活性化に役立てることができる。
- 2) デザイナーなどとの適切な連携によってブランドを作り上げるだけの独自技術の蓄積が当産地には十分にある。独自のものづくり技術で、創造提案型の産地を目指すことが産地復活の鍵をにぎっている。

文 献

- 1) 駅家町商工会地域振興活性化事業報告書、2003。